

日本生命倫理学会「向精神薬の適正使用と生命倫理」部会(略称:向精神薬部会)

後援:医療開発基盤研究所(Ji4pe)

第6回:「GREEN Psychiatry:市民の視点で精神保健福祉のグランドデザインを語ろう」

日時:2026年6月20日(土)18時00分~20時00分(120分間) Zoom 開催

話題提供:齊尾武郎:フジ虎ノ門整形外科病院 精神科・内科

久下明美:兵庫県社会福祉士会/兵庫県精神保健福祉士協会/兵庫県精神福祉家族会連合会

岸 紀子:CMT 友の会

村上利枝:日本癌治療学会認定がん医療ネットワークシニアナビゲーター/相模原協同病院 がん患者会「富貴草」

石原孝二:東京大学大学院総合文化研究科

宮岡 等:北里大学

【以下、登録フォーム】前日までに登録必須

<https://forms.gle/aMt7HaaQQSEUKo6F9>

★参加 URL は開催前日までに送信します。

地域医療構想の中で患者中心医療、多職種協働が進められ、メンタルヘルスケアはハッピー・エンゲージメント・ヘルスケアになっている。地域社会の中で、人と人がつながり、お互いに「ちがいを認めあい、人と社会のつながりが豊かに育まれることが「生きづらさ」を和らげ、ひとりひとりが自分らしい生き方を選び、デザインしていけるようになる。時には社会の仕組み、生活の現場の仕組みを変えなければならないこともある。そんなときに、当事者・家族が中心になって制度をデザインし、アクションを起こすことができるシステムを共に創りたい。専門家、当事者、一般市民といった垣根を超えて、誰もが心を病むことはある、人は人の中で癒される、だからこそ「わたしたち」皆が理想とするメンタルヘルスケアのグランドデザインを描こう。そんなテーマを共有する集いとして企画した。

各講演者は、これまでの取り組みに基づいて以下のような観点から発表し、参加者の方々と議論し、「GREEN-psychoiatry」に向けたいくつかのステップについて合意形成することを目的とする。

1. 「GREEN-psychoiatry」とは何か:仮の定義として、「多剤大量処方、長期入院、非自発的入院をできる限り減らし、「地域社会の中での普通の暮らし」が癒しにつながるような、エコロジカルなメンタルヘルスケアを実現するための精神医学」として提案するが、ワークショップの中で検討を深める。(この提案は、講演者の一部が「グローバル研究倫理規範と意義ある参画」の頭字語による「GREEN 声明」を国際機関に発信した経験に基づく。)
2. 「私たち抜きに、私たちのことを決めないで！」は、障害者権利条約に向けた当事者たちの心の叫びであるが、それはわたしたち誰もが共有する心の表現である。このため、二重否定の表現をやめて、「わたしたちのことはわたしたちで決める」を目標とする。
3. 「生物学モデル」によるメンタルヘルスケアを「人権モデル」へと転換するためには、ケアを必要とする人たちの医学的診断・薬物治療に偏重することなく社会的・環境的要因を重視する必要がある。社会的・環境的要因を変えるための人間中心のアプローチをデザインする。
4. メンタルヘルスケアの体系は、災害、社会・経済的環境や電子情報環境の変化、精神科領域以外の身体的状況の変化によって、「誰もが急激に弱者と呼ばれる状況になる」可能性を想定して設計する必要がある。こうした認識に基づく学際的・市民科学的アプローチは、日本の精神医学を持続可能なグローバル・ヘルス、未来世代、SDGs に貢献しうる営みへと方向づける。

以上のような課題意識のもと、実現可能性にとらわれず、理想的なグランドデザインを描き出すことを本ワークショップの目標とする。

*本部会で話題を提供したい人・部会で検討したいテーマを随時募集します。アイデアを歓迎します。

お問い合わせ:栗原千絵子 chieko.kurihara@nifty.ne.jp

